

東日本大震災（4ヶ月前をふりかえって）

県立循環器・呼吸器病センター
診療放射線技術部 佐藤 益弘

【はじめに】

平成23年3月11日午後2時46分におきた未曾有の大震災から4ヶ月が過ぎようとしております。政局の混乱などがあり復旧・復興が順調に進んでいるとはいえない現状に対して、憤りすら感じております。実家のある気仙沼市でも仮設住宅の進捗率が県内ワースト1と聞こえてきました。そのうえ、漁業・農業・商業などの再建をはじめ、人々の暮らしに明るい将来が見えてくるまでどのぐらいかかるのか心配でなりません。当然これまでの災害初期の対応は大事ですが、それ以上に放射線被ばく問題等も含めメンタル面の対策が重要課題と考えます。ところで、当院は本年4月より地方独立行政法人としてスタートいたしました。しかし、震災で人事の凍結などがあり、変化に気付かず今日を迎えた感じがいたしております。だいぶ時間がたちましたが当院の4ヶ月前を振り返ってみました。

【震災当日】

私は放射線治療の業務でがんセンターに出張しておりました。その時刻、診療放射線技術部技師室で今野診療放射線科長と来年度からの独法化について、問題・課題等を整理しているところでした。その時の感想は最初、またいつもの地震か、という感じではありましたが、その後すぐに何かが違うと感ずくようになり、「いつまで続くのか、終わりそうもないぞ」、「規模が違う、かなり大きいぞ」、「予想していたものかな、遂にくるものがきたぞ」、「今日の呑み会できるかな、それどころじゃないぞ」、「瀬峰の職場は大丈夫かな、かなり古い建物だからやばいぞ」、「家族はどうしているかな、マンションなのでかなり被害はあるぞ」、などいろいろ思いながらがんセンター技師室の冷蔵庫とテレビを今野科長に代わり押えている自分がいました。

その後、がんセンターの放射線治療の装置被害状況を確認し、入院食の配膳をお手伝いし、菅尚明放射線治療主任の車に便乗し2時間かけての帰宅となりました。職場である栗原市瀬峰の循環器・呼吸器病センターには一度電話が繋がり、大体の被害状況と対策本部が設置されたことの報告を受け、家族の無事を確認後12日未明の登院となりました。

【被害状況】

1. 病院施設

- | | |
|-----------------|-------------------------------|
| 1. 貯水槽破損 | 地上設置2基 |
| 2. 給排水管破損 | 病室、詰所、会議室、RI室、リネン室などに漏水 |
| 3. 天井破損 | 4階病室、詰所など |
| 4. 扉破損 | 4階病室 |
| 5. 本館と増築分の接合部損傷 | (カテ室、感染制御棟) |
| 6. 収納庫倒壊 | カテ室、事務室、詰所などの収納棚破損（診療材料、書類など） |
| 7. その他 | 建物の亀裂など |

2. ライフライン

- | | |
|-------|------------------------|
| 1. 電気 | 3月15日11時復旧 |
| 2. 水道 | 3月18日復旧（自衛隊より毎日1トン供給有） |

- 3. ガス 3月12日一部復旧
- 4. 電話 3月16日午後復旧

3. 放射線科関連

- 1. 一般撮影 3月15日復旧（それまではポータブル装置にて撮影）
- 2. CT 3月15日復旧（電源復帰、点検後稼働）
- 3. MR 3月28日復旧（位置ずれ、カバー破損、収納棚破損）
- 4. RI 3月23日復旧（電源復帰、点検、性能評価後稼働）
- 5. 心カテ 3月22日復旧（アーム位置ずれ、保管庫破損、照明破損）
- 6. エコー システムダウンなし（非常電源にて検査可能）
- 7. 画像サーバ 3月15日復旧（参照端末破損あり、フィルム運用にて対応）
- 8. 電子カルテ 3月23日復旧（紙カルテ、伝票にて運用）

4. スタッフ

一番の被害としては海外旅行中に仙台空港に置いた車が水没し、帰国後大変な労力を要して帰宅した技師がいました。また、同級生、友人、親戚、知人が被災した方もいました。また避難所生活をしながら通勤した技師、自宅のライフラインがなかなか復旧しなかった技師、現在も実家が避難所となっている技師もいます。それでも、全員健康で業務に従事できることが何よりです。

【避難所支援活動】（チーム栗原）

震災翌日より、栗原市（瀬峰、築館、高清水）、登米市（米谷、柳津）、南三陸町（歌津、志津川）、石巻市における避難所を巡回し、循環器科医師による血圧測定および下肢静脈エコーによるエコノミークラス症候群スクリーニング検査、呼吸器科医師によるインフルエンザ迅速診断および避難所における感染管理の提案を行いました。

下肢静脈エコーの結果は検査人数 107 名、血栓陽性者数 27 名（うち新鮮血栓 15 名）、陽性率 25% でした。

〔下肢静脈エコーによるエコノミー症候群スクリーニング検査状況〕

検査日	避難所名	検査人数	血栓陽性者数	新鮮血栓	陳旧性血栓
3月12日	栗原市瀬峰保健センター	6	0	0	0
3月13日	栗原市総合文化センター	8	0	0	0
3月14日	登米市登米中学校	12	0	0	0
3月16日	登米市横山小学校	8	1	0	0
3月19日	南三陸町ベイサイドアリーナ	9	4	2	2
3月20日	登米市登米中学校	11	1	0	1
	石巻市蛇田中学校	19	6	4	2
3月22日	東松島市大曲小学校	10	4	2	2
3月23日	東松島市避難所（4ヶ所）	9	5	4	1
3月24日	南三陸町ベイサイドアリーナ	10	4	2	2
3月25日	登米市登米中学校	5	2	1	1
合計（血栓陽性率 25%）		107	27	15	12

◎震災時の業務（放射線業務以外）

- ・病棟の一部が漏水したため、患者を外来フロアにマットを敷いて雑魚寝病棟を開設した
- ・リネン室が漏水したため、放射線科の撮影室の一部を臨時リネン庫とした
- ・閉鎖病棟を臨時病棟として整備する、特にカーテン付けが体にこたえた
- ・エレベータが動かないので、急患をストレッチャーや車いすごと階段を上り移動した
- ・エレベータが動かないので、患者の食事を病棟まで配膳した
- ・破損した収納棚等を撤去した
- ・飛び散った数百の診療材料（心カテ用）を回収し、メーカーに評価、検査をお願いした
- ・自衛隊からの配水時に院内の必要部署（特に栄養部）に配給した

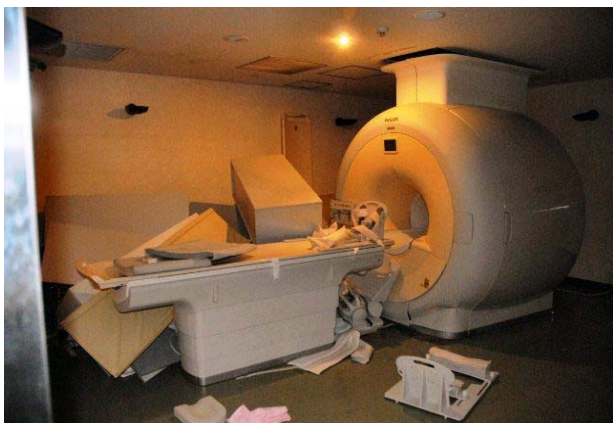
◎放射線科の勤務状況

- ・公共交通機関が停止のため、自家用車で通勤することとなる
- ・ガソリン不足の時は、職員同士乗合通勤で対処した
- ・ガソリン不足が深刻な時は、病院や同僚宅に宿泊した
- ・夜間、休日も技師複数体制なので、人的に充実した救急検査が可能であった

◎番外編

- ・普段はないオーダー（津波による打撲、交通事故による整形領域）があり、窓際にいるベテラン技師が活躍した（？）
- ・少なく限られた食材でスタッフの昼食を見事に調理した、ベテラン女性技師がいた

〔被害状況写真〕



(MR 室)



(MR 室)



(カテ室)



(カテ室)

